

平成26年度学力充実プラン推進事業

1 実践市町村名

蒲郡市

2 事業委託項目

豊かな心を育てるための体験的活動や操作活動を授業に取り入れることにより、子ども一人一人がかかわり合い、高め合う授業づくりの工夫に取り組んだ。この取り組みは、全国学力・学習状況調査における基礎的な知識・技能の習得や子どもたちが習得した知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力にもつながると考えている。

3 事業概要

(1) ねらい

本市各小中学校は、現職研修共通主題『確かな学力』をはぐくむ授業の創造（7年次）のもと、よりよい授業づくりに継続して取り組んできた。共通主題に掲げた「確かな学力」は、「生きる力」の知的側面であり、知識・技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自ら学び考える力、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等まで含めた力を指すものである。

今年度、学力充実プラン推進事業の委嘱を愛知県教育委員会から受けたことを契機に、改めて昨年度の平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を分析した。蒲郡市全体で次の課題が浮かびあがってきた。

目的や意図に応じて、友だちとかかわり情報を得ながら、自己の追究を深め、新たな自分の考えや思いを表現する（書く、話す）こと。

この課題の解決にむけ、学力充実プラン推進事業のモデル校として、蒲郡市立蒲郡北部小学校を指定した。蒲北小では、豊かな心を育てるための体験的活動や操作活動を授業に取り入れることにより、子ども一人一人がかかわり合う授業づくりをめざした。そして、「つながりの中で、ともに高め合う子」を主題として研究に取り組んだ。蒲北小が学力充実改善プランを立て、実践した成果を、蒲郡市全体の小中学校に広めることによって、友だちと学び合いながら、主体的に問題解決に取り組み、本市子ども一人一人の思考力、判断力、表現力を高めることにつながると考えている。

(2) 活動内容 【モデル校：蒲郡北部小学校 研究主題「つながりの中で、ともに高め合う子」】

本年度、蒲郡北部小学校はこれまでの研究の集大成として、活動や体験などの心をゆさぶられる教材との出会いから子どもたちが問題意識や自分の考えをしっかりともち、友だちとともに学び合いながら見方や考え方をひろげ、自分の生活にいかしたり、自己の成長につなげていけたりするような授業をめざして11月5日（水）に、蒲郡市学習指導研究会を開催した。市内外の多くの参加者（170名）が公開授業や分科会に参加し、好評を得た。また、研究紀要を市内20校に配布し研究の成果を広めた。さらに、蒲郡北部小学校の保護者にもアンケートを実施し（12月）、家庭における子どもたちの変容ぶりを保護者の立場から評価していただき、複眼的に本研究実践を振り返った。

（「(5) 成果と課題」参照）

① 研究の内容

ア めざす子どもの姿「つながりの中で、ともに高め合う子」とは

「つながり」とは…「追求対象」に問題意識をもつてくり返しかかわる「個の学び」と「見方や考え方をひろげる友だちとの学び」をくり返すこと

「ともに高め合う子」とは… 学ぶ楽しさを実感し、自分や友だちの成長を喜び合える子

イ 教師の働きかけ

思いをもたせる 「へえ!」「やってみたい」「どうして?」「知りたい」

- ・追求対象との、心をゆさぶられるような出会い
- ・追求意欲を持続させる単元構想の工夫

個を支える 「～と思ったよ」「こうしてみようかな」「わかったよ」「よく考えてみたんだけど」

- ・考えを引き出し、明確にするための対話や朱書き
- ・子どもが自分の考えを深めたり、学ぶ楽しさや成長を実感したりするためのふり返り

学びをつなげる 「似ていて」「違って」「～と比べて」「それは～じゃない?」

- ・友だちとかかわり、見方や考え方をひろげることができる学び合いの構築
- ・学んだことを次の学習や生活にいかしていけるような活動の工夫

(3) 活動計画

①研究授業（夏休み前までに各学年）

1・2年	全体研7月3日(木) 1の2山田紗織 助言者：福井 信也先生（西三河教育事務所指導主事） 部会研6月16日(月) 2の1川瀬裕史 指導員：齋藤 章子先生（蒲郡東部小学校）
3・4年	全体研6月26日(木) 4の1柴田真由美 助言者：兼子 明先生（西尾東部中学校長） 部会研6月9日(月) 3の2壁谷慶子 指導員：清水 政秀先生（塩津中学校）
5・6年	全体研6月20日(金) 6の1安藤涼二 助言者：夏目 真治先生（新城市教委学校教育課長） 部会研5月29日(木) 5の2吉見佳奈子 指導員：本間 憲明先生（蒲郡西部小学校）

②地域の方（講師）を招いての授業実践

3年	9月24日(水) ③3の1藤田理映子④3の2壁谷慶子 講師：小田静生（清田町）
5年	10月24日(金) ①5の1惣崎貴之②5の2吉見佳奈子講師：小田多巳佳（清田町）

③11月5日(水) 蒲郡市学習指導研究会 ・公開授業 13:50～14:35

教科	学年・組	単 元 名	場 所	授業者
生活	1年1組	うちのおにぎり めしあがれ	1-1教室	伊藤知夏
	1年2組		1-2教室	山田 紗織
	2年1組	通学路のことは おまかせ ～ 蒲北あんぜんまもりたい ～	2-1教室	川瀬 裕史
	2年2組		2-2教室	鳥居 敦子

社会	3年1組	蒲郡いちごおうえん団 ～『サンベリー蒲郡』のひみつを探れ！～	3-1教室	藤田理映子
	3年2組		3-2教室	壁谷 慶子
	4年1組	ごみは 宝の山 ～生まれ変わるわたしたちの資源～	4-1教室	柴田真由美
	4年2組		4-2教室	小林 俊弥
社会	5年1組	考えよう！ 食の未来 ～わたしたちのくらしと食料生産～	5-1教室	惣崎 貴之
	5年2組		5-2教室	吉見佳奈子
	6年1組	長く続いた戦争と子どもたち	6-1教室	安藤 涼二
	6年2組		6-2教室	加藤真奈美

・分科会（低学年部会、中学年部会、高学年部会）14:55～16:30

（４） 研究実践【モデル校：蒲郡北部小学校】

① 低学年部会…生活科

1年「うちのおにぎり めしあがれ」

おにぎりをにぎる体験を、くり返し単元の中に取り入れた。家の人の様子を見たり、聞いたりしたことや、話し合いの中でわかった気づきを試すことで、「できるようにになりたい」「もっと上手になりたい」という思いを高めることができ、息の長い追究をすることができた。

どんなおにぎりを、どのように作りたいのかを対話で明確にしていって。さらに、気づいたことをわかりやすく伝えたり、自分のやりかたと比べたりすることができるよう、実演を交えて発表させた。自分と友だちのやりかたの共通点や相違点に気づくことができ、「今度は〇〇ちゃんのやりかたでやってみたいな」と、友だちのやり方を取り入れて自分のおにぎりをグレードアップしていこうとする姿が見られた。

2年「通学路のことは お任せ～蒲北あんぜん まもりたい～」

日頃からお世話になっているパトロールさんを取り上げ、安全を守ってくれる設備がたくさんあるのに、なぜ毎日来てくれるのかという思いをもたせることができた。

安全を守る設備から、人に目を向けている子と対話をし、思いを引き出しておくことで、子どもが自信をもって発表することができ、全体へひろげることができた。

パトロールさんに直接インタビューをしたことで、苦労していることや、みんなのために思って活動していることを知った。そして、「蒲北あんぜん まもりたい」として、自分たちがこれからどうやって交通安全を守っていくかを話し合い、他の子へ伝える活動を考えることができた。



＜交通指導員さんにインタビュー＞

② 中学年部会…社会科

3年「蒲郡いちごおうえん団

～『サンベリー蒲郡』のひみつを探れ！～

地域のいちご農家の方と出会わせた。子どもたちは、何度も現地へ行って農家の仕事について調べたり、見つけたことについて教室で話し合ったりすることで、いちご農家の方の工夫や思いに気づくことができた。「サンベリー蒲郡の値段が高い理由は何だろう？」という話し合いでは、子どもたちが蒲郡いちごを食べた体験やいちごハウスでの調べ学習に支えられた気づきを交流することができた。蒲郡いちごに込められた工夫や思いを知った子どもたち



＜いちごを調べにハウスへ＞

は、「サンベリー蒲郡」を応援して、もっと多くの人に知ってもらいたいという思いをもち、どんな活動をしていこうか考えることができた。

4年「ごみは 宝の山～生まれ変わる わたしたちの資源～」

家庭や学校のごみ調べやごみステーション、クリーンセンターの見学を通して、ごみ処理の現状を知り、ごみを減らすことやごみを生まれ変わらせる方法について考えることができた。「リデュース・リフューズ・リサイクル・リペア・リユースの5Rをもっとみんなに知らせよう」「残さずご飯を食べよう」「物を大切にしよう」と、今の自分たちにできることを考え、実行する子どもたちの姿が見られた。

③ 高学年部会…社会科

5年「考えよう！ 食の未来～わたしたちのくらしと食料生産～」

身近な弁当に使われている食材の産地調べをしたことで、身近に外国産の食料がたくさんあることに驚き、日本の食料自給率が低いことに気がついた。そして、なぜ外国産が多いのだろうと興味をもって追究することができた。また、蒲郡市の農家数の推移がわかるグラフを提示したことで、農家数の減少や耕作放棄地の増加を身近に感じる



＜栄養士さんを招いて＞

ことができた。家の人がどのようなことに気をつけて食材を選んでいるのか聞き取り調査をさせたり、栄養教諭の方に給食の食材を選ぶときにどのような事に気をつけているか話を聞く機会をもうけたりしたことで、消費者は安いだけでなく安心・安全にも気をつけていることに気がつくことができた。

一人調べの時間に見つけた、外国で日本産の食料が好まれているといった内容の新聞記事を、これからの食料生産をどうしていったらいいのかについて考える場面で提示させたことで、地産地消だけでなく、輸出するということにも目を向け、考えを広げることができた。

6年「長く続いた戦争と子どもたち」

学区の中央公園にある平和塔や隣の安楽寺にある墓石を取り上げたり、市史や学校誌を活用したりしたことで、15年間の戦争を蒲郡と結びつけてとらえさせることができた。子どもたちは、「戦争中の蒲郡はどんな様子だったのだろう」「子どもたちは、どうしていたのだろう」という思



＜戦争の体験談を聞く＞

いをもって追究していくことができた。

終戦時10～18歳だった地域の7名の方に話を聞くことで、戦争中の子どもたちに迫ることができた。空襲の恐ろしさ、今とは全く違う学校・家庭生活や社会の価値観等くわしい聞き取りができて、戦争の残酷さや平和の尊さを痛感した子どもたちは、改めて今の自分たちの生活をふり返ることができた。子どもたちのふり

返りについて、教師は、対話と朱書きをくり返し、問いかけたりゆさぶったりすることで、一人一人の考えを引き出し明確にしていった。

表をワークシートとして活用し、自分と友だちの考えを比較したり関連づけたりできるようにした。終戦時の子どもたちについての話し合いでは、これまでの学習をもとに様々な意見を出し合い、戦争がつらく悲しい過去ではあっても、それを忘れず前向きに生きることの尊さと伝えていくことの大切さに気づいていくことができた。

(5) 成果と課題

①学習指導研究会（蒲郡北部小学校）参加者のアンケートより（11月5日）

＜参加者：合計170名（市内教職員103名、市外教職員12名、その他来賓等55名）＞

ア 研究主題「つながりの中で、ともに高め合う子」が具現化されたものだったか。

②授業のいろいろな場面において、北部小としての“教師の働きかけ”が見られた。子どもたちが“つ

ながり”を意識して授業に取り組む姿も見ることができた。

- ①6年生の授業の中では、地域の平和塔、墓石や地域の方の話や日記などを組み込み、対話を繰り返して座席表ワークシートの活用をすることで具現化が十分なされていたと思う。

イ 授業における子どもの姿はどうだったか。

- ②息の長い発言をし、授業の振り返りでは自分の思いを長文で書いている姿が印象的でした。ただ、声が小さく、教師がフォローしないと他の子たちに伝わっていないかなと感じた。
- ③本時で、話し合うことが子どもたちの中でよく築き上げられていた。発言の中に「〇〇さんの意見と同じで…」というように友だちの名前がたくさん出ていて、つながっていた。

ウ 分科会について

- ④生活科の単元構想を考える上で、子どもたちが五感を使って行うことができる体験を多く取り入れた教材を開発することが大切であると理解できた。
- ⑤地域教材をどう扱っていくのか、振り返りの視点をどのようなものにしていけばよいのか、社会科の学習の進め方、とらえ方について理解できた。

エ 成果

- ・「とても勉強になった」「これまでの迷いがすっきりした」など、協議会では参考になる意見が多く出され、参観者自身が日頃の実践をふり返る場となった。授業づくりで大切にしたい考え方や話し合いの場における教師の出のあり方などを新たに学んだり、再確認したりする貴重な時間となった。さらに、協議会においては、教育の本質に迫る感想も出された。蒲郡北部小学校の研究の成果が市内全体に広がり、蒲郡全体の財産となっていくと期待できた。
- ・今後は、市内小中学校における学習指導研究発表会での小中教職員の交流が盛んになり、教師の授業力向上につながるようにしたい。また、小中教職員の交流が盛んになることは、小中の連携を深めるうえでも価値あることと思う。

②まとめ（学習指導研究会に参加してのアンケートより）

- ・ア⑦、①、イ④の下線「つながりを意識」「対話を繰り返し」「友だちの名前がたくさん」とあるように、友だちとのかかわり合うことによって、自分の考えを見直し、新たな自分の考えをもてたことがわかる。このことは、思考力の高まりであるとも言えよう。またイ⑦の下線「長文で書いている」ことから、自分の思いや考えを相手に伝えようとする表現力も高まっていることがわかる。
- ・ウ⑦①の下線部からは、地域素材を教材にし、子どもたちがわくわくドキドキするような体験活動を授業の中に取り入れることは、「なんで?」「どういうこと?」という問題意識をもたせることに有効であったことがわかる。

このように、本研究の成果からは、蒲郡市全体の子どもの目指す姿である「友だちとのかかわり情報を得ながら、自己の追究を深め、新たな自分の考えや思いを表現する」子どもの姿に近づいていることがわかる。この取組の成果を研究紀要にまとめ、市内全校に配布し成果の還流を図った。

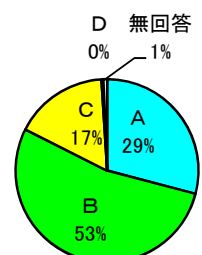
③平成26年度蒲郡北部小学校の学校評価保護者アンケートより（一部抜粋） 313名回答

A：そう思う B：どちらかと言えばそう思う C：どちらかと言えばそう思わない D：まったくそう思わない 無回答

ア お子さんは、授業が楽しいと感じていますか。

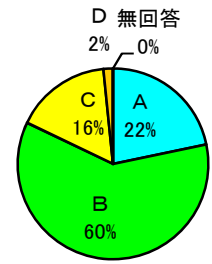
体験を通して実感したり、足を運んで現地で調べたりしながら学ぶ学習も多くし、また、友達と共に学び合う活動を取り入れて、より深く理解できるようにした。

昨年度に比べ満足群（A、B）が約4%の減少がみられた。また、不満足群のCも約5%増加がみられた。しかし、昨年度4名もいたD評価が今年度1名に減少したことはうれしいことである。さらに、教職員自身も研修して、子どもたちがより一層学ぶことの楽しさやわかる喜びを味わえるようにしていく。



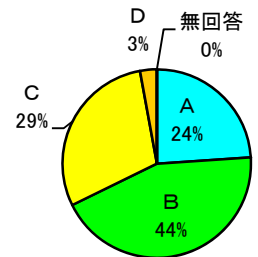
イ お子さんは、授業の内容を理解していますか。

子どもたちが自分なりの課題をもって取り組む授業を実践した。11月の研究発表会では、子どもたちの発言や文章の質の高さを評価された。しかし、CおよびDのご回答が18%であることは私たち教職員の検討すべき点と考える。今後も子どもに寄り添い、基礎基本がきちんと身につくよう授業のしかたを工夫し、必要に応じて複数の教員で授業を行い、子ども一人一人をより多く見て声をかけるようにする。



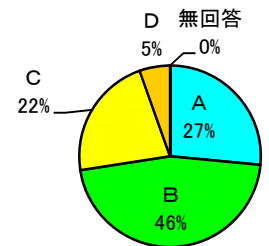
ウ お子さんは、進んで発表するなど、授業に意欲的に参加していると思いますか。

話し合いを充実させるために「話す人の方を見て聞く」「最後までよく聞く」など、聞く姿勢を指導したり、意見を言うときには「〇さんと同じで…」「〇さんの意見に似ていて…」というように、友達の見解との関係を言葉に表す発言のスキルを身につける指導もした。昨年度とほぼ同じ評価をいただいた。満足群が約70%であるが、C評価が約29%もある。今後も子どもたちが意欲的に参加できる楽しい授業づくりに努めていきたい。



エ お子さんは、読書を自分から進んでしていますか。

昨年度に比べ、C評価から満足群（A、B）への移行がみられた。その結果全体の平均も上がった。しかし、C評価がまだ約30%もあったり、D評価の約15%は昨年度と変わらない。今後も引き続き、読書環境の改善や学級文庫の充実、図書の購入を進め、目標をもって読書に取り組ませる。また、図書ボランティアの皆さんのお力をお借りし、読書を楽しむ環境を整えるとともに、読書週間の定着を図っていきたい。



④まとめ

- ・アの下線からは、授業に喜びや充実感を得ている子どもが増えたことがわかる。
- ・イの下線「質の高さ」からは、子どもたちの姿を市内外の参加者（170名）という複数の視点から分析しても、本研究を通して確実に成長している子どもの姿がわかる。
- ・ウの下線「ほぼ同じ評価」とあるように、平成24年度からの継続的な研究への取り組みが着実に子どもたちの成長につながっていることがうかがえる。
- ・エの下線から読書に親しむ子どもが増えていることがわかる。これは自分なりの判断からさまざまな情報を得ようとする子どもの意欲的な姿をみることができよう。

⑤今後の指導

平成26年度全国学力・学習状況調査結果を分析した自校の指導改善計画書を有効に活用することはもちろんのこと、体験活動や心をゆさぶる教材との出会い、友だちとのかかわり合い等、本研究を通して明らかになった有効な手だてを今後も日々の授業実践において生かしたい。さらに、市内各校の小中教職員の活発な交流を図ることによって、それぞれの教職員がもつ効果的な指導方法を生かし合いたい。このようにして、今後も子ども一人一人の成長を願って授業力向上に努めたい。